# 2024 年度 大阪医療センター皮膚科研修プログラム

## A．専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で，皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる充分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に，皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し，関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり，患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として，医の倫理の確立に努め，医療情報の開示など社会的要望に応える。

## B．プログラムの概要：

本プログラムは大阪医療センター皮膚科を研修基幹施設として，大阪大学医学部皮膚科，関西ろうさい病院皮膚科，市立池田病院皮膚科，箕面市立病院皮膚科，市立豊中病院皮膚科，大阪病院皮膚科，住友病院皮膚科，日本生命病院皮膚科，第二大阪警察病院皮膚科，大阪府立急性期総合医療センター皮膚科，市立東大阪医療センター皮膚科，大阪はびきの医療センター皮膚科，岸和田徳洲会病院皮膚科，南和歌山医療センター皮膚科，大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科，堺市立総合医療センター皮膚科，大阪みなと中央病院皮膚科，吹田市民病院皮膚科、医誠会国際総合病院皮膚科を研修連携施設として，大手前病院皮膚科，大阪ろうさい病院皮膚科を研修準連携施設として統括する研修プログラムである。なお，本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。(項目 J を参照のこと)

## C．研修体制：

研修基幹施設：国立病院機構大阪医療センター皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：小澤健太郎（診療科長）

専門領域：皮膚腫瘍，皮膚外科，水疱症

指導医：川喜田遥香　専門領域：アレルギー，皮膚感染症

施設特徴：大阪市中心部に位置する基幹医療施設として大阪市内及び大阪府内から幅広い患者を受け入れている。1 日平均の外来患者数は 45 名で，初診患者の紹介率は 70%にのぼる。1 日平均の入院患者数は 7.3 名であり，年間手術件数は約 170 件で，入院や手術を要する患者の診療に重点を置く診療体制をとっており，豊富な経験を積むことが可能である。

研修連携施設：大阪大学医学部皮膚科

所在地：大阪府吹田市山田丘 2-2

プログラム連携施設担当者（指導医）：藤本学（教授）
指導医：金田眞理，玉井克人，種村篤，坂井浩志，清原英司，中川幸延，荒瀬規子，植田郁子，渡邉玲，松岡悠美，石塚洋典，外村香子，松村裕，吉岡華子，森坂広之，山崎由里子

研修連携施設：関西ろうさい病院皮膚科
所在地：兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69
プログラム連携施設担当者（指導医）：福山國太郎（診療部長）
指導医：高橋玲子

研修連携施設：市立池田病院皮膚科
所在地：大阪府池田市城南 3-1-18－3
プログラム連携施設担当者（指導医）：近藤由佳理（主任部長）

研修連携施設：箕面市立病院皮膚科
所在地：大阪府箕面市萱野 5-7-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：松本千穂（主任部長）

研修連携施設：市立豊中病院皮膚科
所在地：大阪府豊中市柴原町 4-14-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：横見明典（部長）

研修連携施設：大阪病院皮膚科
所在地：大阪府大阪市福島区福島 4-2-78
プログラム連携施設担当者（指導医）：竹原友貴（診療部長）
指導医：池田彩

研修連携施設：住友病院皮膚科
所在地：大阪府大阪市北区中之島 5-3-20
プログラム連携施設担当者（指導医）：庄田裕紀子（診療部長）

研修連携施設：日本生命病院皮膚科
所在地：大阪府大阪市西区立売堀 6-3-8
プログラム連携施設担当者（指導医）：東山真里（部長）
指導医：林美沙

研修連携施設：第二大阪警察病院皮膚科
　所在地：大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻 2-6-40
　プログラム連携施設担当者（指導医）：調裕次（部長）

研修連携施設：大阪急性期総合医療センター皮膚科
　所在地：大阪府大阪市住吉区万代東 3-1-56
　プログラム連携施設担当者（指導医）：大畑千佳（部長）
　指導医：今中洋子

研修連携施設：市立東大阪医療センター皮膚科
　所在地：大阪府東大阪市西岩田 3-4-5
　プログラム連携施設担当者（指導医）：猿喰浩子（主席部長）
　指導医：角田佳純

研修連携施設：大阪はびきの医療センター皮膚科
　所在地：大阪府羽曳野市はびきの 3-7-1
　プログラム連携施設担当者（指導医）：片岡葉子（主任部長）

研修連携施設：岸和田徳洲会病院皮膚科
　所在地：大阪府岸和田市加守町 4-27-1
　プログラム連携施設担当者（指導医）：駒村公美（部長）

研修連携施設：南和歌山医療センター皮膚科
　所在地：和歌山県田辺市たきない町 27-1
　プログラム連携施設担当者（指導医）：南宏典（医長）

研修連携施設：大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科
　所在地：大阪府大阪市中央区大手前 3-1-69
　プログラム連携施設担当者（指導医）：大江秀一（部長）

研修連携施設：堺市立総合医療センター皮膚科
　所在地：大阪府堺市西区家原寺町 1-1-1
　プログラム連携施設担当者：（指導医）田中文（部長）

研修連携施設：大阪みなと中央病院皮膚科
　所在地：大阪府大阪市港区築港 1-8-30

プログラム連携施設担当者：（指導医）三浦宏之（部長）

研修連携施設：吹田市民病院皮膚科
所在地：大阪府吹田市岸部新町 5-7
プログラム連携施設担当者：（指導医）越智沙織（部長）

研修連携施設：医誠会国際総合病院皮膚科
所在地：大阪府大阪市北区南扇町 4−14
プログラム連携施設担当者（指導医）：爲政　大幾（主任部長）

研修準連携施設：大手前病院皮膚科
所在地：大阪府大阪市中央区大手前 1−5−34
プログラム連携施設担当者：城村拓也（部長）

研修準連携施設：大阪ろうさい病院皮膚科
所在地：大阪府堺市北区長曽根町 1179−3
プログラム連携準施設担当者：白井洋彦（部長）

研修基幹施設には，専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者，プログラム連携施設担当者，指導医，他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は，専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け，施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には，専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる。

研修管理委員会委員

委員長：小澤健太郎（大阪医療センター皮膚科 科長）
委　員：川喜田遥香（大阪医療センター皮膚科 医員）
：山下敬子（大阪医療センター看護部病棟師長）
：坂井浩志（大阪大学医学部附属病院皮膚科 講師）
：福山國太郎（関西ろうさい病院皮膚科　診療部長）
：近藤由佳理（市立池田病院皮膚科　主任部長）
：松本千穂（箕面市立病院皮膚科　主任部長）
：横見明典（市立豊中病院皮膚科　部長）
：竹原友貴（大阪病院皮膚科 診療部長）
：庄田裕紀子（住友病院皮膚科　診療部長）
：東山真里（日本生命病院皮膚科　部長）
：調裕次（第二大阪警察病院皮膚科　部長）
：大畑千佳（大阪急性期総合医療センター皮膚科　部長）
：猿喰浩子（市立東大阪医療センター皮膚科 主席部長）
：片岡葉子（大阪はびきの医療センター皮膚科　主任部長）
：駒村公子（岸和田徳洲会病院皮膚科　部長）
：南宏典（南和歌山医療センター皮膚科　医長）
：大江秀一（大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科　部長）
：三浦宏之（大阪みなと中央病院皮膚科　部長）
：田中文（堺市立総合医療センター皮膚科　部長）
：越智沙織（吹田市民病院皮膚科　部長）
：爲政大幾（医誠会国際総合病院皮膚科　部長）
：城村拓也（大手前病院皮膚科部長）
：白井洋彦（大阪ろうさい病院皮膚科部長）

前年度診療実績：

| | 皮膚科 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1日平均外来患者数 | 1日平均入院患者数 | 局所麻酔年間手術数（含生検術） | 全身麻酔年間手術数 | 指導医数 |
| 大阪医療センター | 45人 | 7.3人 | 314件 | 9件 | 2人 |
| 大阪大学 | 88.8人 | 11.1人 | 862件 | 55件 | 17人 |
| 関西ろうさい病院 | 48.8人 | 3.8人 | 254件 | 0件 | 2人 |
| 市立池田病院 | 30.4人 | 3.5人 | 385件 | 0件 | 1人 |
| 箕面市立病院 | 39.2人 | 5人 | 219件 | 0件 | 1人 |
| 市立豊中病院 | 48.1人 | 8.2人 | 817件 | 52件 | 1人 |
| 大阪病院 | 43.6人 | 6.2人 | 541件 | 0件 | 2人 |
| 住友病院 | 40人 | 4人 | 180件 | 0件 | 1人 |
| 日本生命病院 | 104人 | 8人 | 206件 | 0件 | 2人 |
| 第二大阪警察病院 | 59.1人 | 4.9人 | 258件 | 0件 | 1人 |
| 大阪急性期総合医療センター | 23.6人 | 3.8人 | 218件 | 0件 | 2人 |
| 市立東大阪医療センター | 45.3人 | 6.6人 | 551件 | 0件 | 2人 |
| 大阪国際がんセンター | 27人 | 8人 | 128件 | 53件 | 1人 |
| 大阪はびきの医療センター | 112人 | 12.8人 | 347件 | 1件 | 1人 |
| 岸和田徳洲会病院 | 45人 | 0人 | 78件 | 0件 | 1人 |
| 南和歌山医療センター | 28.1人 | 0.6人 | 3件 | 0件 | 1人 |
| 堺市立総合医療センター | 46.7人 | 5.8人 | 600件- | 0件 | 1人 |
| 大阪みなと中央病院 | 30人 | 4人 | 57件- | 0件 | 1人 |
| 市立吹田市民病院 | 44.3人 | 2.9人 | 291件 | 0件 | 1人 |
| 医誠会国際総合病院皮膚科 | 0人 | 0人 | 0件 | 0件 | 1人 |
| 大手前病院 | 23.2人 | 1.3人 | 3件 | 0件 | 0人 |
| 大阪ろうさい病院 | 44.7人 | 2.5人 | 45件 | 0件 | 0人 |
| 合計 | 1016.9人 | 110.1人 | 6291件 | 170件 | 42人 |

**D．募集定員：2人**

**E．研修応募者の選考方法：**

書類審査および面接により決定（大阪医療センターのホームページ等で公表す

る)。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお，詳細については，大阪医療センター職員研修部宛てにメールしていただき決定。

**Ｆ．研修開始の届け出：**

選考に合格した専攻医は，研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年 4 月 30 日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

**Ｇ．研修プログラム　問い合わせ先**

大阪医療センター皮膚科
小澤健太郎　　TEL：06-6942-1331
FAX：06-6943-6467

**Ｈ．到達研修目標：**

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p.26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

**Ｉ．研修施設群における研修分担：**

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

１．大阪医療センター皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後，皮膚腫瘍や難治性疾患などの専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え，教育・研究などの総合力を培う。また，少なくとも２年間の研修を行う。

２．大阪大学医学部皮膚科，関西ろうさい病院皮膚科，市立池田病院皮膚科，箕面市立病院皮膚科，市立豊中病院皮膚科，大阪病院皮膚科，住友病院皮膚科，日本生命病院皮膚科，第二大阪警察病院皮膚科，大阪急性期総合医療センター皮膚科，市立東大阪医療センター皮膚科，大阪はびきの医療センター皮膚科，岸和田徳洲会病院皮膚科，南和歌山医療センター皮膚科，大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科，堺市立総合医療センター皮膚科，大阪みなと中央病院皮膚科，市立吹田市民病院皮膚科，医誠会国際総合病院皮膚科，大手前病院皮膚科，大阪労ろうさい病院皮膚科では，急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践，病診連携を習得し，大阪医療センターの研修を補完する。これらの連携研修施設のいずれかで少なくとも２年

間の研修を行う。

## J．研修内容について

１．研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし，研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また，記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

| コース | 研修<br>1年目 | 研修<br>2年目 | 研修<br>3年目 | 研修<br>4年目 | 研修<br>5年目 |
|---|---|---|---|---|---|
| a | 基幹 | 基幹 | 連携 | 連携 | 基幹 |
| b | 基幹 | 基幹 | 連携 | 連携 | 連携 |
| c | 連携 | 連携 | 基幹 | 基幹 | 基幹 |
| d | 基幹 | 連携 | 連携 | 連携 | 基幹 |

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大阪医療センターで後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが，諸事情により2年間同一施設もあり得る。

b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。

c：研修連携施設から研修を開始するコース。

d：研修 2 年目から 4 年目にかけて研修連携施設で研修し，地域医療の経験を積み，最終年次に大阪医療センターにて研修するコース。

２．研修方法

**１）大阪医療センター皮膚科**

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。
研修開始3ヶ月目以降は診察医として外来診察を行う。

病棟：専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。
毎週 2 回の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では１回/月　英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また，皮膚科関連の学会，学術

講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 中央手術 | 外来 | 外来 |
| 午後 | 病棟回診<br>入院患者ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 各種検査<br>病理･臨床・手術ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 中央手術 | 病棟回診 | 中央手術 |

２）連携施設

**大阪大学医学部皮膚科**

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では１回/月　英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。また，皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来<br>手術 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>回診<br>ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 病棟<br>手術<br>病理<br>ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 病棟<br>回診<br>ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 病棟 | 病棟 | | |

**関西ろうさい病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実

施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>生検 | 病棟<br>手術 | 病棟<br>手術 | 病棟<br>生検 | | |

週１回カンファレンス

**市立池田病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟 | 病棟<br>手術<br>検査 | 病棟<br>褥瘡回診 | 病棟 | 病棟<br>回診 | | |

週１回カンファレンス

**箕面市立病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>検査 | | |

週１回カンファレンス

**市立豊中病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法，特に悪性疾患の治療に対する知識，技術を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>手術 | 病棟<br>手術 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>検査 | | |

週１回カンファレンス

**大阪病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。特にフットケア，皮膚潰瘍の症例を多く経験する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 病棟 | 病棟 | 病棟 | 外来 | 病棟 | | |
| 午後 | 外来<br>検査 | 手術<br>回診 | 外来<br>ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 外来<br>ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 外来<br>ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | | |

週１回カンファレンス

**住友病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，各種検査，処置，基本的手術手技等を習得する。皮膚科特有の疾患以外に内科系，外科系疾患に関連する皮膚症状にも精通し，皮膚を通して患者を総合的に診察する能力を身につける。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 手術<br>外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>検査 | 外来<br>病棟<br>検査<br><br>病理カンファレンス | 病棟<br>処置<br><br><br>検査 | カンファレンス<br>回診（含褥瘡）<br>検査 | 病棟<br>処置<br><br><br>検査 | | |

月１回下肢循環障害（PAD）合同カンファレンス

**日本生命病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の乾癬診療，救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参

加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来<br>手術 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>検査<br>処置 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>検査<br>処置 | 病棟<br>外来 | 病棟 | | |

週 1 回カンファレンス

**第二大阪警察病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | | |

週 1 回カンファレンス

**大阪急性期総合医療センター皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | | |

週１回カンファレンス

**市立東大阪医療センター皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来<br>処置 | 外来<br>処置 | 外来<br>処置 | 外来<br>処置 | 外来<br>処置 | | |
| 午後 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来<br>褥瘡回診 | | |

週１回カンファレンス

**大阪はびきの医療センター皮膚科**

指導医の下，アレルギー基幹病院および地域医療の中核病院の勤務医として，アトピー性皮膚炎，薬疹，食物アレルギー，蕁麻疹などのアレルギー疾患を中心に，主として重症難治性の皮膚疾患の診療，救急医療，処置，手術法を習得する。ことにアトピー性皮膚炎については，乳児から成人まで全年齢の重症患者の長期コントロールの方法を習得する。その技能として外用療法，紫外線療法，全身療法，悪化因子の除去，心理社会的調整，患者指導等すべてを習得する。すべての症例において，皮疹，病理組織，血液検査所見等から病態を洞察，理解し，治療計画をたてることができるようになることを目標とする。大阪医療センターのカンファレンス，抄読

会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 初診予診 | 病棟<br>入院検査 | 病棟<br>入院計画 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>他科対診<br>ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 病棟<br>皮膚検査 | 病棟<br>病理検討 | 病棟回診<br>ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 病棟<br>手術 | | |

＊初診予診：各症例について略診し，本診察終了後，指導医と討論する。
＊皮膚検査：皮膚生検，光線テスト，パッチテスト，プリックテスト等
＊入院検査：負荷試験等
＊入院計画：新入院患者の把握と治療計画の立案
＊カンファレンス：指導医と主に入院患者の治療計画の検討，再検討を行う

**大阪国際がんセンター 腫瘍皮膚科**

指導医の下，特定機能病院かつ都道府県がん診療連携拠点病院での勤務医として，がん診療および皮膚外科に関する基本的な技術と知識を習得すると共に，わが国最先端のがん診療内容を体験する。時間が許す限り，大阪大学皮膚科でのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連及び悪性腫瘍関連の学会，学術講演会，セミナー，緩和医療講習会に積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会やキャンサーボードに定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来<br>処置 | 外来<br>処置 | 手術 | 病棟 | 外来<br>処置 | | |
| 午後 | 病棟<br>病理ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 病棟<br>外来 | 手術 | 病棟回診<br>外来手術<br>臨床ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 病棟 | | |

週１回カンファレンス

**岸和田徳洲会病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の 24 時間体制の救急病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |

週１回カンファレンス

**南和歌山医療センター皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。他科との連携が密な病院であり，皮膚症状を伴う他科疾患にも積極的にかかわる。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | | |

週１回カンファレンス

**堺市立総合医療センター皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表

を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>処置 | 病棟<br>処置 | 病棟<br>処置 | 病棟<br>処置 | | |

週１回カンファレンス

**大阪みなと中央病院皮膚科**

地域医療の中核病院の勤務医として，救急医療，処置，手術法を習得のは勿論，指導医の下，希少疾患や内臓疾患と関連した皮膚疾患を見逃さない幅広い知識を蓄積し，ダーモスコピーやエコーを含めた診断スキルを身につけることを目標とする。難治疾患や終末期皮膚癌に対しても積極的に治療や緩和の方法を工夫することにより国内外の学会発表，論文報告に繋げる。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーや病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>検査 | 病棟<br>処置 | 病棟<br>処置 | 病棟<br>処置 | 病棟<br>処置 | | |

週１回カンファレンス

**市立吹田市民病院皮膚科**

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院

が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>病 棟 回診カンファレンス | 病棟<br>外来<br>検査 | 病棟<br>検査<br>病理カンファレンス | 病棟<br>手術 | 病棟<br>外来<br>臨床カンファレンス | | |

週１回カンファレンス

**医誠会国際総合病院皮膚科**

指導医の下，急性期医療中核病院の勤務医として一般皮膚科診療、皮膚外科、皮膚腫瘍診療について研修する。皮膚外科に関しては手術を要する患者の周術期治療と外科的手技を習得する。皮膚悪性腫瘍診療では、手術療法、薬物療法、集学的治療の適応判断や実診療を習得する。大阪大学附属病院皮膚科でのカンファレンス，抄読会などに参加し学習することが望ましい。専門医取得に必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。発表症例に関しては、筆頭著者として論文を作成することを目標とする。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全、感染症対策をはじめとする各種講習会に定期的に参加する。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 手術 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟 | 病棟 | 病棟<br>カンファレンス | 手術 | 病棟 | | |

３）準連携施設

大手前病院皮膚科

皮膚科部長及び非常勤指導医による指導の下，地域医療の中核病院として，救急皮膚疾患の対応や，開業医院・クリニックからご紹介頂いた皮膚疾患の治療にあたる。当科にて病理・臨床カンファレンスを週２回，近隣病院皮膚科との症例検討会を月2回している。年に2回以上の学会発表し，論文1本書くように指導している。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>外来<br>手術 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来<br>手術 | 病棟<br>外来<br>手術 | 病棟<br>手術 | | |

週１回カンファレンス

大阪ろうさい病院皮膚科

皮膚科部長による指導の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪医療センターのカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | 外来 | | |
| 午後 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | 病棟<br>外来 | | |

週１回カンファレンス

研修の年間予定表

| 月 | 行事予定 |
|---|---|
| 4 | １年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 |

| | |
|---|---|
| | ２年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。 |
| 5 | |
| 6 | 日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認） |
| 7 | |
| 8 | 研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施 |
| 9 | |
| 10 | 試験合格後：皮膚科専門医認定 |
| 11 | |
| 12 | 研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる） |
| 1 | |
| 2 | ５年目：研修の記録の統括評価を行う。 |
| 3 | 当該年度の研修終了し，年度評価を行う。<br>皮膚科専門医受験申請受付 |

**K．各年度の目標：**

１，２年目：主に大阪医療センター皮膚科において，カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1.基本的知識 2.診療技術 3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5.生涯教育）を学習し，経験目標（1.臨床症例経験 2.手術症例経験 3.検査経験）を中心に研修する。

３　年　目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

４，５年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。３年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎　年　度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また，大阪地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し，診療能力の向上に努める。PubMED などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し，自己学習に励む。

## Ｌ．研修実績の記録：

１．「研修の記録」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。

２．「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。

３．専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。

４．専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。

５．「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

## M．研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

１．専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年３月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。

２．専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合，研修プログラム責任者に直接口頭，あるいは文書で伝えることとする。

３．指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。

４．研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検討する。

５．専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」，経験症例レポート 15 例，手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し，総括評価を受ける。

６．研修プログラム責任者は，研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し，総括評価を記載した研修修了証明書を発行し，皮膚科領域専

門医委員会に提出する。

**Ｎ．研修の休止・中断、異動：**

１．研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。

２．研修期間のうち，産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大６ヶ月までは研修期間に認められる。なお，出産を証明するための添付資料が別に必要となる。

３．諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要が生じた場合，すみやかにプログラム統括責任者に連絡し，中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

**Ｏ．労務条件、労働安全：**

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与，休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。なお，当院における当直はおおむね2〜3回/月程度である。

2024年1月26日

大阪医療センター皮膚科

専門研修プログラム統括責任者

小澤健太郎